

第9回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成22年9月21日 14:30～

○開催場所：大津蔵（富士吉田市内）

○対話グループ：本町大好きおかみさん会ほかの皆さん

○司会

それではお待たせいたしました。

知事が到着いたしましたので、まず、はじめに横内知事からあいさつをさせていただきます。

○知事

皆さん、こんにちは。

今日は皆さんご用件のおありの中をお集まりいただきまして、ありがとうございました。

県政ひざづめ談議といいまして、年に20回、こういう会を開くことにしております。いろいろな分野で活躍をしておられる方々とごつくばらんいろいろなお話をさせていただきたいという会でございます。

今日は、富士吉田市の本町通りの商店を経営しておられる方々など本町大好きおかみさん会の皆さんにお集まりをいただいたというように聞いております。商店街がだんだん厳しくなっていく中で一生懸命、活性化のために努力をしておられる皆さんと聞いております。

どんな話でも結構ですけれども、今日は日ごろ県政についてお感じになっていることを、何でもお聞かせをいただければありがたいと思います。

県政というものを、あまり難しく考える必要はないんですが、普通の市民の方は県政か市政か分からないわけで、それはもうどんなことでも結構です。

市政にかかわる話で大事なことは、堀内市長さんにもお伝えしますから、何でもいいですから、まちづくりのを中心にお聞かせいただければ、ありがたいというように思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会

それでは早速、意見交換を始めさせていただきたいと思います。

お手元のお茶を飲みながら、ぜひ意見交換をお願いしたいと思います。

○参加者

本日は知事さんを迎えて、このような会が持てたということは、本当に幸せだと思っています。本当にありがとうございます。

まず、お詫びしなければいけないんですが、今日、急きよ、出席を予定した者の中に、2名ほど急きよ、所用のためということで欠席をさせていただいたんですが、ご迷惑をかけて申し訳なかったと思います。

やはりおかみさん会の実情というのは、そのへんにあると思うんですね。女性の会ということで、家族を含め、自分では来ようと思っても、やはり家族のいろ

いろな所用で、どうしても男の人とは違って、男の人の場合は家族を放っておいても会議に出席したりとか、いろいろイベントに出席するということはできるんですが、やはり主婦ですので、いろいろなことで制約もあったりする中で、おかみさん会のこの活動も事情が人それぞれありますので、できるときには一生懸命しようということで、やはり今22名いますけれども、いろいろなイベントの中でもできる人が一生懸命するというので、頑張っています。

そういう私もやはり商店といっても零細企業ですので、80代の父と、そしてあとパートさん、主人は別の仕事をしていますので、店のほうを3人で回しているんですが、今年の夏はやはりこの暑さですので、父が夏バテで食も細くなってしまって、ご飯もあまり食べられなくて・・・父がいないとやっぱりこういうところにも出て来られなかったりするので、食事の中に栄養剤を混ぜて、何とかこの会をしなければ困るという感じで、そんなようなこともしながら皆それぞれ活動しているという現状なんです。

ですから、こういう機会は、もう二度とないと思いますので、失礼なこともあるかと思いますが、この短い時間を有意義に過ごしたいと思います。忌憚のない意見を出させていただきますので、よろしくお願ひします。

○知事

サラリーマンの主婦とは違いますからね。本職を持っているから。まずその仕事がありますものね。それに介護の仕事があったりあるいは子育てをしておられる方も、それもまた大変です。多面的にいろいろ活動しておられることでしょうね。

この本町通りというのは、この通りではなくて・・・。

○参加者

そうですね。この縦の通りが一応、基本的には本町通りといいますね。この本町大好きというのは、それを左右に、この周りも含めて本町という昔からの呼び名がありまして、そこに住んでいます商店主だけではなくて、本当に専業主婦の方もいますし、そういうような女性ばかりの会です。

22名ですけれども、いろいろイベントとかをするときには、やはり女性の力だけではなかなか、例えば力仕事も結構あるんですね。イベントをいろいろ開いていますので、そういうときには主婦ですので、ご主人の力を借りたりとか、息子とか、家族全員をみんな振り回したり、あと縁の下の力持ちと、私たちは勝手に呼ばせていただいているんですが、ご近所の人たちの力もやっぱりないと、なかなかできませんので、本当に地域皆さんの力で私たちの活動が成り立っているんだなと思います。

○知事

この通りは、昔、随分と栄えたんだろうけれどもね。吉田の街というのは、上吉田・下吉田と長いですよ、ずっと商店街がね。

○参加者

だから本当に車で通りすぎてしまえば、本当にシャッター通りというしかないと思うんですね。

○知事

照明なんかも随分古いしね。街路灯なんかもね。

○参加者

そうですね。

だから本当に車で通りすぎてしまえば、なんていうことない、本当にただのシャッター通りかもしれませんけれども、でもそこに住んでいる私たちが、やっぱりこの街のことをもっと皆さんに知ってもらいたいし、本当に昔からの人のつながりも、まだまだ残っていますので、やっぱりそういう良さを皆さんに知ってもらいたいということで、このおかみさん会というものを作りました。

○知事

大体半分ぐらいシャッターが閉まっていますかね。

○参加者

半分でもないですけども、結構多いですね。

ついこの間、8月30日に県と市の主催で中心市街地の商業者と県・市が語る会というものがあまして・・

その前にもこういう時代ですので、中心市街地の活性化策なんかも考えているようなことを、ちょっと新聞でも読んでいたもので、当日、私のほうが本町大好きおかみさん会の代表ということで、出席させていただいたんですね。一応、商工会議所を通してお声がかかったんですが、その前に新聞でも県のほうでいろいろ考えているとかという記事も読ませていただいていたので、私自身も期待して、いろいろざっくばらんに話ができる会だとは思ったんですが、でも時間を見たら、2時から3時というんですね。やけに短いなとは思ったんですが、実際にその会に出席させていただきましたら、本当に県の主だった方がたくさん、市の方とか、もう本当に私みたいな一おばさんみたいな人はいなくて、何かちょっとこんなところで自分の意見も言えるのかななんて、不安になったんですね。

結構マスコミの方とかもいらっしゃっていて、とても緊張した中で始まったんですが、私なんかも期待して、これからもっと明るい未来を持ってみんなで頑張りたいというように思っていたもので・・ 始まりましたら、県のほうで支援策ということで話を伺ったんですが、それも本当に県のほうでこういう補助金を用意してありますという、結局そういう話だったんですね。

市のほうからも、それに呼応したように、支援策ということで、こういう補助金を用意してありますということで話がありまして、大体それが20分ぐらいだったんですね。あと40分ぐらい、その中でずうずうしくもちょっと手を上げさせていただいて言ったんですが、県のほうでもいろいろな基金とか、たくさん用意してくださっていても、それを使いこなすという、それを活かすすべが、受け入れる私たちとか、商店主のほうにそれだけの力量がある人というのが少ないんだと思うんですね。

そのときにもちょっと話をしたんですが、私たちもまちづくりの中のお手伝いをさせていただいているんですが、やはり私たちも「こうしたらいいね」とか「ああしたらいいね」という「いいね話」はできるんですが、それを実行してという

と、結構ハードルも高いし、それは言い訳だと思いますが、主婦の集まりなので、なかなかそういう専門知識もないですし、ですから何かあったときには、もう本当に体でご奉仕するという、そういう会で意気込みはすごいあるんですけども、みんなを取りまとめて行こうというものがなかなかちょっと苦手、苦手というか、そこまでの専門知識がないので、やはりやる気が・・・商工会議所もそうなんですけど、やる気がある、そういうまちづくりのスペシャリストみたいな方を雇用していただいて、その人が中心となり、その人が街の中に入って行って、この街は果たして本当に、この下吉田地区もそうなんですけど、県とか市のほうでは観光でというように言っていますが、それを果たして望んでいるのか、そのへんのことから地域住民に話を聞いて、県とか市のパイプ役になって、一致団結して同じ方向性を持ったまちづくりをできるような人材をすごく望んでいるんですね。

それに対してのお手伝いというのはいとわないつもりでやっていこうという気持ちはあるんですけど、その中心になるというか、そんなお金のことを言ったらおかしいですけど、やはり皆さんボランティアでやっているわけですよ。

ですからやっぱりどうしても自分の家の生活もあるので、そこまで一生懸命になり切れないところもあるので、それを仕事として、そういう人たちがいてくれると、本当に心強いですし、そういうことを私たちとしては望んでいるんですね。

この間の会議のあとも、やはり意見を言われた方はちょっと少なかったんですね。そのあともやはり皆さんの話ですと、本当に申し訳ないんですけど、役所仕事だなど、みんな言っていたんですよ。

○知事

お金は用意してありますから、皆さん知恵を出して何か考えてみてくださいと、こういうことですね。

○参加者

そうですね。

○知事

おっしゃるように、やっぱりみんなそれぞれ本業を持ってね。特に家庭の主婦の方というのは、いろいろなお仕事をこなさなければいけないものですから、なかなかやっぱり難しいですよ。勉強しろと言ったってね。

もちろん時間があって、ある程度のお金があれば、シンポジウムみたいなものとか、セミナーみたいなものとか、たくさんあるんですよ。東京あたりへ行けば・・・そういう機会というのはたくさんありますよね。なかなか行っている機会もないですよ。

○参加者

そうですね。

○知事

気持ちはよく分かるんですけど、やっぱりまちづくりをやっていく上には、人が一番大事で、全国どの町でもまちづくりがうまくいっているところというのは、やっぱり中心になるリーダーにアイデアがあって、このリーダーシップをとる人がいると・・・必ずそれは間違いなくそうですね。そういう人がいないとね、

なかなか動かないですよ。

○参加者

そうなんですね。人材がちょっと不足していますので。

○知事

いいじゃないですか、あなたがやってみたら・・・

○参加者

さっき言うように、親にドリンク剤を飲ませてきているようなものですから・・・だから、おかみさん会の場合は、とにかく自分たちができることをして。

○知事

だけど、そうはいつでも、時々会って話をしたりしていると何かやってみたいというようなことがあるんじゃないですか。

○参加者

それはありますね。

○参加者

我が家の周りもなんですが、古い空き家と老朽化した家屋が町内にたくさんあります。これは市が管轄するのか、県が管轄するのか、よく分からないんですが、何年も放置したまま活用されない建物がたくさんあります。

それはやっぱり解体費用が高かったり、更地にした場合に固定資産税が上がってしまうということが影響しているのではないかと思います。

それで、特別条例として、何かちょっと安く・・・ 条例をつくっていただいて、補助金とか・・・

○商業振興金融課長

固定資産税の減免ですか。

○知事

何か活用方法はあるんですか。例えば、そういう補助制度があって、自分の持っているところを解体しますと。解体して、あとこういうことに使いたいと・・・

○参加者

若い方がたぶん住んでくれると思うんですよ。

○知事

そこへ家を建てててですか。

○参加者

若い方はみんな違うところに住んでしまうんですよ。今いる方はおじいさん、おばあさん。そこに長年住んでいる方で、どこにも行けないというか、この街がいいという人が多いんですね。

若い方はみんな新西原とかに住んだりして、この辺には住まないんですよ。本当に子どもの数も少なくなってしまう。

○知事

若い人がそこへ家を建てますか、どうですかね。

きれいに更地にしたところですね。そういうところは土地を売るということですね。

○参加者

そうですね。何かいい方法がないでしょうかね。やっぱり町の景観もだんだん悪くなっていくというか。

○知事

再開発とか区画整理とかですね、そういう事業がありまして、事業にみんなと一緒にやれば、そういう補助制度はあるんですよ。けど個別単体のお宅で、これは空き家で使わないから、この際これを整備して、更地にして土地を売ろうというときに、補助制度があるかというところありませんね。

○参加者

やっぱり政治が変わると、区画整理をしようとなっても、また変わってしまう、たぶんその繰り返しだと思いますね。

○知事

なかなかこの通りを区画整理といっても難しいですよ。

お金といったって、それはやっぱり皆さんの負担がありますからね。なかなか大変ですよ。

けど空き家なんかでも、今リフォームすれば、かなり新築に近い形にリフォームができるし、そういうところに、例えば若い人で商業、お店でもやって、ちょっとしゃれた店をつくりたいなんていう人がいたりして、そういう人はいることはいるんですよ。若い人が・・・。

○参加者

そういう方を含めて、やっぱり街というのは若い人も入ってこない、中小の商店のほうの活性化といっても、やっぱりこの地域にあるお店は、歩いて来られるようなお客さまをターゲットとしている方がほとんどなんですよ。

ですから、商店の活性化というのは、ひいては地域に住む人たちが増えないと、やっぱりその街が良くなっていかないと思うんですよ。だからそういう意味でも、若い人たちが、土地を求めてとか、そういうことも含めて、やっぱりこの街をどういうふうにするかという、大きくプランが練られるような人が出てくると、本当にいいですね。

○参加者

私もやっぱりまちづくり委員会とか商工会議所で行っている会の会員なんですが、やはり何かあると本当に簡単な、お手軽なイベントとか一店逸品運動とか、そっちのほうにだけ走ってしまって、やはりそのときにいろいろな方が見えたとときに、本当に隠したいという、もう本当に廃屋も廃屋、すごいものがたくさんあるんですが、それがやっぱり困るということで、男の人たちが一生懸命、よしずで隠したりとかして、そうしてお迎えするんですけども、正直言って、せっかく来てくださった方が本当にいい街と思えるかしらというのが、私たちの一番心配なところで、だから逆にソフト面で何かできることがないかということで活動しているんですが、やはり空き店舗とかというのは、全国的な問題だと思うんですが・・・

2009年の朝日新聞に出ていた長崎市の例なんですが、やはりどこでも廃屋

とかという問題があって、それを個人の土地を市のお金を出してまで解体するの
かというところがやっぱり一番ネックになるところだと思うんですが、長崎市の
場合はその土地を、もう建物もすべて提供してもらおうという・・・。

○知事

条件は市に寄贈するとね。

○参加者

寄贈するという条件でこの建物を解体して、その市の土地になるという記事
だったんですが、もう大体の結果が出ていると思うので・・・何かそういうよう
なことでもしない限り、やはり風穴を開けるようなことをしない限り、この問題
は解決しないと・・・。

それができた時点ではいろいろ若い人に入ってもらおうとか、例えば市のもの
だったら市で不動産部とかをつくって、それを今度新しい人とか、道路が通ると
きの代替地にここを提供するとかと。

でもここに住みたいという人も確かにいると思うんですね。年配の方もいると
思うし、若い人は現にここにお店を・・・この方たちもそうなんですが、そうし
たときにやはり大家さんとの問題でネックになっている。

市が持っているんだったら、市がそれなりのことができるんじゃないかと思
うし・・・。

○知事

この長崎市というのは、狭い土地で、斜面で、グラバー邸とか、みんな斜面じゃ
ないですか。斜面に家が建っていて、広い道路がないんですよ。だから、火災
とか何でも危なくて仕方がない。だから、市は恐らくその解体費用を補助しま
すよと。その代わり、その解体で空いた土地は市に寄付してくださいよと。そう
すると、公園にしたりとか、あるいはそれで例えば道路をつくるときの代替地に
したり、そういうようにしたりしようとしているんですよ。

あの長崎市のことを考えると、分かりますよね。

皆さんも解体費用を出してくれるのはいいけれども、土地をただで提供しろ
と言われれば、ちょっと考えちゃうでしょう。

○参加者

でもその例とかも、追跡調査もしてみても、何か新しいことをやらなければ、
どこの土地もみんな同じことだと。さっき言われるように、固定資産税が更地に
すれば上がってしまうとか、解体する費用もないとか、というようなことで、こ
こをみんないい街と言ってくださるんですが、その中でどんどん壊れていくと
ころがあって、だからそこが解決した時点で、いろいろなことが可能になることが
結構多いと思うんですよ。

○知事

お若い方で、この通りで何かご商売されているんですか。

○参加者

そうです。私はアクセサリーショップをやっています。
アクセサリーを自分で製作して販売しています。

○参加者

県外からいらした方で。

○知事

県立の宝石学校を卒業した方ですね。

それはよくおいでいただきましたね。

それで吉田のほうにおいでになって、アクセサリーをつかって、それで自分で販売しておられる。

○参加者

はい。今3年目に、お店はなりますけれども。

○知事

お客さんは増えていますか。

○参加者

徐々にという感じで、まだ私、午前中バイトをしている状況なんですけれども、それでないと家賃も払えないし、生活ができないという状況で、目標は自分がアクセサリーをつかって売って、それで食べていきたいというのが目標なんです、なかなかそこまではいかないということで・・・。

○知事

どうして、この土地でお店を開くことになったのですか。

○参加者

この町が好きなんです。

○知事

この本町通りが・・・。

○参加者

この西裏というエリアというか、ここらへんです。

○知事

何かほかに、魅力がありますか。

○参加者

私、実は先ほど解体とかという話が出て、ドキドキしていたんですが、古い街が好きなんです。なので、壊さないで、そのまま活かして、若い人が来てくれたらいいなと思うんです。

○参加者

もちろんそうですが、廃屋、もうボロボロなところがたくさんで、その部分のことです。

○知事

なるほど、傾いたような家で危なければ、何とかしなければいけないと。

○参加者

私の知り合いで同じ頃に、ここらへんでお店を始めた方がいるんですが、その方もちょっと家賃が高いということで、廃業される方がいるので、私はやっぱりお店が増えることが大事だと思うので・・・家賃がちょっとネックになっているのではないかと考えています。

○知事

甲府の街なんかもそうですが、古い商店街ですね。みんなもうシャッター街になってしまって、結局、跡取りがないものですから、ご主人とかが歳をとると閉めてしまうんですよね。

ところが、それを貸したらいいじゃないかと・・・。甲府の街あたりだと、こういう若い人でお店を出したいという人はいくらでもいるんですよね。安くして貸したらいいじゃないですかといっても、安くしないんですよね。

何でしないかという、別に困ってないからなんですよね。高かったら、借りてくれなければいいんだと。貸家を持っているとか、駐車場を持っている、駐車場でお金が入ってくるとか、別に安く貸す必要もないんだというような感じですから、安くならないんですよね、家賃が・・・

だから、なかなか若い人が入ってきにくいということがありますね。

だけど、こういうような若い人で、古い商店街なんかに店を出したいという人は確かにいますよね。家賃を安くしてくれればね。

その地主さんにしてみれば、昔からこのくらいの値段で貸しているんだからというようなことですね。

○商業振興金融課長

空き店舗の補助はずっとではありませんけれども、一応はしているんですけれどもね。

○参加者

私は補助をいただいている身なんですけど、今年3年目で終わってしまうので・・・やめられる方も3年経ったら家賃も払えなくなるからやめるといような状況なので・・・やっぱりもともとから安いというのが、一番若い人が入りやすいというか・・・

○知事

アクセサリーをPRして、お客さんもつくしね。お客さんが入るようになると素晴らしい。東京から買いに来るような店になるといいですね。

○参加者

そうですね。

○知事

あなたもやっぱりお店を出しているんですか。

○参加者

私は山口出身で大学と仕事で東京にずっと出ていて、こっちに撮影に来たときに、何か無性に住みたくなりまして、撮影業の身なんで、地方に出るといようなことは自殺行為なんです本当は・・・。東京とパイプをつなぎつつ、4人でシェアハウスをしていて、同じ年代の女性が1軒、すごくいい大家さんの家をロープライスで貸してもらったので、家賃とか込みですごい低い生活費でやっていけるので、みんな夢を追って住んでいるんです。

私は大体、半分ぐらいはほかの場所に撮影とかで仕事で行くんですが、こっちでは映画学校という看板を立てて、自分も映像を少しだけかじっているんで、撮

影方法というか、カメラとウインドウズのパソコンがあれば、誰でも映像が作れるし、映画っぽいものがつくれるということを伝えつつ、映画鑑賞会とか、こっそり街中でやったりして、何か楽しくここにちょっと映像に触れていただくという形で、コミュニケーションがとれたので・・・私個人はいずれ映画祭というか、街の人全員に何か映像をいじってもらいたい。そして、映画祭交流とかできたらいいなと思ったりしているんですけども・・・

彼女と同じように、ぜひ活かせる建物は活かしていただきたい。いろいろな地方を見て空き店舗の中でも現代的な建物で空き店舗というのは、結構いっぱいあり過ぎて・・・ここで、特化すべき武器といたら、やっぱり昭和の街並みっぽいというか、かわいいんですよ。西裏とかも、やっぱりもともと飲み屋さんだったところとかもいろいろあると思いますが、その建物自体はやっぱり今見ると、すごく造り的にはかわいらしいけれども、なかなかない建物も多いので、友人とかを連れて来ると、それはそれでショックを受けるぐらい面白いんですよ。

空き店舗は今全部、潰しちゃったりとかされると、だんだん一定の形に・・・それか現代アートの的なお店とかどちらかになって、やっぱりこの強みは街並みだったり、言葉の学校だったり、新世界通りというすごい不思議ないいところがあるんですが、皆さんは何かうーんとおっしゃるんですが、私の友人とか映画関係の人間とかは特にこれはいいよと言うんですね。

○知事

映像関係の人はそういうことに関心を持つでしょうね。

カメラマンでそういうところを一生懸命撮っている人がいるじゃないですか。昔の古い遊郭みたいなもので、まだ切々とその雰囲気が残っているようなところとかですね。

○参加者

一步踏み込めば住むとか、店を開くということに、やっぱり関心を持つ人が特に若年層は多いと思いますね。

確かに店を開いたら、今の3年の補助というのも、リアルにやると確かに3年以上ほしいという気持ちになるでしょうけれども、それをすごい分かりやすい形で、3年補助、半額にします、それと、リフォーム代も何とかなるのではないかと。それをまずはエサとして、もっと分かりやすく提示するというのは、すごいありだなと思って・・・私は全然、そんなすごいいい情報を知らなかったので、私は個人的に今、街中で映像とか情報番組というものを勝手につくって、ネットとか、もっとほかの方に手を貸してもらったり、いろいろな人の目につきやすい場所に出して、インターネットとか目に付きやすいメディアをどんどん使って、分かりやすい形で出すとか・・・すごいいい情報が分かりづらい情報になっているので・・・若者専用にはないですが、おいしいネタというか、こんな補助があるのが分かりやすいホームページとか、ちょっとした番組、小さなCMを作るとか、そういうこともありなんじゃないかなと思うぐらい、この街自体は外部から来た自分としては、すごい魅力があるんですよ。

もしかしたら家賃を下げたいという人もいるかもしれないので、シェアハウス

の情報とか出してもらって・・・やっぱり1人で住むより集団で住むといい意味で、すごい活性化できる場所があると思うんです。助け合える感覚とか。だからシェアハウスの情報をどこかに、さっきお話の中で県でも何でもいいんですが、すごく分かりやすく、スポットは若者だったり、ちょっとここに住みたいという人たちのために見せる何かを出したりする。

○知事

その商店街のホームページみたいなものをつくって・・・

そういうところもあるでしょう。

その中に例えば部屋も貸しますよとか、それには補助金もついていますよとか。いろいろな情報を入れるような方法というのは、できることはできますよね。

○商業振興金融課長

商工会のページとかですね。若者が見やすいというのは、なかなか工夫しないと・・・。

○参加者

何かワンクリック、ワンクリックでつまらないと思ったら、パッと見ないような時代だと思いますね。

本当にポイントを1個絞るといえるのか、空き店舗を使いたいスポットをあてる何かキャンペーンとか・・・そういうのも一つの手だと思います。

○知事

あなたはいずれここを題材に映画でも作って見たら・・・。

○参加者

私はいずれつくるつもりでいます。

ここでは必ず撮りたいと思っているので、それがいい引き金になるかどうかは分かりませんが、そうしたいと思いますし、それぐらいの魅力がある街かなとおっしゃられるけれども、本当にある。

○知事

そういうことなのでしょうね。何かあるんですよ、魅力がね。

○参加者

そうですね。だからすごい不思議だったんですね。何でここに来るのかなど。どこにそんな魅力が。本当に皆さん遠いところからいらしていただいて、今日はちょっと欠席ですけども、同じシェアしている方、あとヨガの先生をしている方とか、農業とかね。本当にそれぞれで出身もみんなバラバラなんですね。

でもそういう若い人たちの気持ちにも私たちも応えたいなと思っていますし。

○知事

その4人の方というのは、どういういきさつで知り合ったんですか。

○参加者

ヨガの子はもともと友達で彼女とヨガの先生はここで会った。もう1人の子はヨガの子の知り合い・・・。知り合い、知り合いという感じで、だからうまくいっているのかもしれないですけども・・・。

○参加者

そうですね。人のつながりって不思議ですよ。

○知事

もう空き家になって使えないような部屋があって、そういうものを若い人に安くどんどん貸してくれるようになるといいですね。

ほかの方はいかがですか。

○参加者

皆さん画期的な意見を、すごくいいんですが・・・現実を言いますと、まずはお店を朝出すじゃないですか。うちの隣もずっと4店舗、空き店舗なんですよ。ずっと。古いお店が4軒閉まっているんですよ。

そしてお店を開けて掃除をするんですよ。ついでに、その4軒も2日に1回、なるべく毎日掃くようにはしているんですよ。今年の夏は特に暑かったので、クモの巣がすごいですよ。アーケードにいっぱい。

私の勝手な意見なんですけど、これが大勢の手で、空き店舗は空き店舗でも、今の現実はどうしょうがないんですが、そこをきれいにすれば、吉田の街を歩く人とか、この間も下吉田まちなめぐりという皆さんが歩いたんですが、そうすると少しはお掃除したり草を取ったり、空き店舗の窓をふいたり、そういう作業もすると、少しお掃除をして手を入れれば、きれいになるんですよ、街というのはね。

だから私、毎日掃除をするたびに思うんですが、例えば小・中学校、金曜日の1校時は地域のお掃除をする日だと、こんな感じで子どもたちの手を借りたり、地域の団体の手を借りて、例え1時間でも街をきれいに、お掃除をするということもいいじゃないかななんて、そんなふうに思うことがあります。

○知事

確かに町が寂れた感じというのは、きちっと清掃が行き届いてないということがありますよね。

○参加者

だからシャッターが下りていることは仕方がないことなので、そこをきれいにしておけば少しはいいんじゃないかなと思いますけれどもね。

○参加者

そのへんは女性の視点だと思うんですね。私たちが何かできることはといたら、同じ商店街をきれいにして、例えばここを買いたいなといった人が来たときに、周りがきれいになっていれば、早く借り手もつくかもしれないし、この街の人たちがみんなで協力しているんだなというように思えると思うんですね。

だから、みんなできれいにしようというような気持ちで・・・掃除の場合はお金もかからないですし、みんなで作る気さえあればきれいな街になる。

よそのところへ行って、私なんかも思うんですが、朝早くいろいろな、例えば古い家のところについても、本当に街が、やっぱり誇りを持っているというか、本当にきれいにしているんですね。

古い建物でも、みんな大切にその家を守っているということが、分かるんですね。だから、ほかの商店街にしても、確かに活性化も確かに大切なんですけども、まず歩いてみて、いい街だなと思うような、本当にゴミが落ちていたりとか、

雑草がアーケードの隅から出ているような、そういう街だけにはしたくないなというように思っていますので・・・男の人はすぐに活性化とかといいます、私たち主婦からすれば、本当に身の回りの掃除から、まずしたほうがいいんじゃないかなと、本当に常日ごろ思いますね。

○知事

活性化といっても、例えばこの通りを広げてアーケード街をきれいにしてというようなことを、やってできないことはないですからね・・・でも、それは一見きれいにはなるけれども、面白みがない街になるんでしょうね、やっぱりね。今の街を残しながら、できるだけきちっと整理して・・・確かに危険な廃屋はできるだけ閉じてしまったほうがいいと思いますけれども、そういうところはちょっとした公園にでもしたらいいと思うし、そういうような形がいいかもしれないですね。

けれども、アーケードが古くなってさび付いてしまっているようなアーケードが多いですね。

○参加者

みんなでペンキを塗ったりとか、少しでも自分たちのできる商店街の範囲ではしたりとか、なかなか隣のところまでとなると・・・私たちおかみさん会の場合結構、敷居はないんですが・・・そんなことを言うと男の人に悪いんですが、案外あるんですね、商店街はこっちの商店街だとかという形で・・・

そのへんの敷居を取ってしまえば、みんなで一斉にしようとかということになると思うんですが、なかなかちょっと難しいところがあるのも現実ですね。

○知事

それはただ大事なことですよね。

あとはいかがですか。

○参加者

若い人たちにこの街を気に入ってもらっているということだったんですが、今現在、住んでいるお宅でも何か昔の感じを残している家があっても、その家にはもうお年寄りで補強ができなかったり、経済的にとかそういう意味で・・・

何年前にそのお宅もレトロだった、私はレトロをあまりうたいたいとは思わないんですが、そういう面での観光にしたいと思っているわけではないんですが、若い人がこの街がいいと言われたので、ちょっと思ったんですが、昔を残しているような建物なんです、もう壁が半分落ちてしまっていたりというようなお宅もあるんですね。でもその家に言っても、もうかなり年配の方でそれをどうすることもできないと思うんですよ。

でも、それが壊れたら、何か寂しいなと。またここで一つ昔の良さが消えてしまうなと思うようなところがたくさんあると思うんですよ。だから使えるお宅がなんかの形でいいように残せたらね。

例えば若い人が入るにしても、補助金があったり、そういう形で中が改装できるようにしてあげるとか、絹屋町という通りご存じですか。

昔、このへんが織物で栄えて、市があったところでね、そこがすごく素敵な通

りなんですね。

○知事

この下吉田の縦の南北の通りから出ているんですか。

○参加者

私たちのエリアの中なんですかけれどもね。

そこでも3、4年前ですか、1つ家がなくなってしまうって、空き地になってしまったんですよ。そこは残しておくって素敵だなと、その中にももう人が住んでいないようなお宅があるんですね。建物はあってもよそへ移り住んでしまったと。だから、そういうものもシェアハウスにしていだいたりとか・・・

○知事

それはそうですね。

ただ、行政側が建物のそういう改修とか、そういうものを補助するとなると、やっぱり文化財だとか、すぐそういうことになるんですよ。しかし文化財なんかにはならないけれども、大正時代につくられた風情のある建物もある。この地域というのは繊維で非常に栄えたところですからね。お金があったんでしょうね。だからそれなりの建物をつくったんですよ。

○参加者

そんなにいい家のことを言っているんじゃないんですが・・・。普通のお宅でも、残しておくってちょっといい面影が残っているような感じで、今は年寄りが住んでいるけれども、将来的にそこを若い人が、何かあればそういうお店にしてもいいなというところもあったりして、さっきおっしゃったように男の人は、すぐに街巡りとかしていますよね。でも、実際はそういう昔の面影はあるかもしれないけれども、昔の面影をきれいに残しているものを街巡りで見せたいんですが、ガタンとなってしまったりしている建物だと見に来ていただく方にも何だか申し訳ないような感じがするんですよ。

柱が取れてガラスがなくて、家の中へ木が生えていてというふうだね。それももとの持ち主ができないからと、そのままになっているし・・・ 観光に見せるのに、そんなことでは本当に恥ずかしい。まず、そういうところに何か手を差し伸べていだいて・・・。

○知事

しかし、それをきちっと維持するためにお金を出せと言われても、行政的には難しいですよ。相当値打ちがある建物ならばいいんですけども。

だから、そういう例えばこの地域をそうやってまちづくりをするときに、どういふことをしたらいいかということですが、観光資源になるほどまた魅力もないんですよ。

○参加者

そうです。

○知事

まちづくりはよそ者、若者、ばか者ね。ここに2人、よそ者で若者がいるから。ばか者じゃないけれども・・・。

2人はどう思いますか、この街を少しでも、もうちょっと元気にすると言ったら。

○参加者

やっぱり商売が成り立たないと元気にならないと思うので、私は周りに店が増えてほしくて、全国にアピールしたいと思っています。やっぱり町の人を買ってもらうのはもちろんなんですが、それだけでは何か足りないというか、全国の人にアピールしてもらって、観光地というそういうものも嫌なんですけれども、でも東京とかの人に来てほしいなと思います。

○知事

監督はどう思いますか。

○参加者

確かに観光地のみの形はすごく不安定というか、諸刃だと思う。観光地としてどこまで長続きするかという感じになるので、住んでいる人と住もうとした人とか、少しでもそこにいる人がものすごい楽しみになることがポイントだと思うんですね。もうちょっとだけ情報提示の仕方を分かりやすくするということですかね。東京までバスで1時間半で行けるということも、実際にすごい魅力的な話なので、吉田のバスステーションから。そういうことも分かりやすく伝えていくとかということも、でも気付かれなくてもいいので、そういうことをある意味、自分たちが発信じゃないですが、伝えていって、それを出してもらうことも必要だろうし、何かいいものがあるから、交通整理をするということがやっぱり。

もちろん絶対数は上げないといけないと思うので、商店とかそういうものでもいいと思うんですが、観光としては富士山だったりハイランドがあるけれども、プラスアルファ西裏とか、その本町に来て、お買い物とか、いろいろな店があってお買い物をして楽しんで帰るといったクッションにすこくなれる街だと思うんですね。

そうすると絶対その人たちの旅も面白いだろうし、それは観光ではなくて、もうちょっと生活プラスちょっと寄りたくなる街という流れで帰ってもらうこともいいし、何かを目指す人間がいるなら、東京ともつながりながら、ここでちょっと目指すものを実現させるというのも、すごいありな街だと思うんですね。距離的にもありだし、空間的にもすごいいいスペースが多いので・・・何か時間とか空気感だったり、そしてすごい個々に面白い方が多いので、そういう人たちが持っている力はすごいあると思うので、もっといい感じに活用できる風通しを良くすると、かなり改善されることも多いのではないかなと。

○知事

昭和レトロな街といいますよね、富士吉田は。このへんもそうなんですか。どこが中心なんですか。

○参加者

そうですね、先ほど話が出ました、絹屋町というところが・・・この通りよりも東ですね。昔そこに市がありまして、旦那衆がそこで稼いだお

金を今度、西へ行って西裏でお金を使うという。

○知事

料理屋街ですか。

○参加者

そうですね。飲み屋さんだったり。だから、この通り筋を挟んで商売をしてお金を使うところみたいな、そういうような形で、そういう昔の新世界と言いまして、飲食店が集まったような、こういうやっぱりクランクみたいなところですね。

その中に知事さん、こちらが古い書店でその建物も昔から残ってしまして、本当にレトロの象徴でもありますので・・・。

○参加者

レトロと言われても、手っ取り早く言えば、ぼろ屋ということですよ。看板も45、46年前ですか、手書きの看板になるんですが、その看板自体も薄れてきているんですよ。

そして私もその看板を全部直すということはちょっと大変なので、字を手書きで上からなぞってもらって、濃くしようと思ったんですけども、ある人がそんなことはしないで、現状のままにしておくほうが、ずっとずっと魅力があつていいですよというから、そのままにしておきましょうということになったんです。

まちめぐりというものがいつも9月にあるんですが、もう今年で5年目なんですよね。でも、最初の頃は盛り上がりもあったんですが、もう5回目となりますと、もう歩くところが・・・下吉田駅をスタートして、うちのお店の前も通りまして、最終的に中村会館で終わるといような形なんですけど、先ほどのお話にもありました、絹屋町という繊維問屋さんがあったところも通るんですが、年々、下降気味だと思うんです。

きっとおかみさん会のメンバーも、そういうことを感じていると思うんですよ。それをもう少し何か違う方向で考えて、また盛り上げるといようなことをしないと、このまま、また来年第6回目をしましても、だんだんそれに乗ってくる方がいないんじゃないかなと思うんです。

○知事

確かにね。同じ思考だと駄目ですよ。

○参加者

そうです。私自身がそのガイドもするんですけども、3回目までは張り切ってやっていたんですが、去年、今年ともう説明することも見るところも同じなんです。ですから、うちではある程度の資料をつくりまして、お客さまにそれを渡して、それを読んでもらえれば分かることなので、ちょっと触りだけ説明しまして、あとはそれを読んでくださいといような格好になっちゃいますね。

それで、また来る人数も減ってきていると思うんですよ。それをもう一つ、ちょっと踏み込んで、ほかの方向転換といつか、何かと一緒に考えていかないと、そのまちめぐりというものも、だんだんしぼんでいってしまうのではないかなと思いますけれどもね。

○知事

富士吉田と言えば、うどんと繊維ですよ。

○参加者

そうですね。

○知事

繊維屋さんも最近は大手の商社の委託生産ではなくて、自社ブランドでつくるようになりましたよね。

ああいう人たちがちょっとした店でも出してくれればいいんだけどもね。この中へ。

それにつけても、やっぱり何かPRをしないことには・・・東京には、まち歩きというのはPRしているのでしょうか。インターネットか何かで。

○参加者

だからそのへんも私たちからすれば、本当にいつも反省して、じゃあ今度はこういうようにしたいというように言っても、なかなか活かされないっていうんですかね。そしてまた同じことを繰り返すという、だからそのへんが何かちょっとむなしさも・・・。

○知事

いまひとつ、一皮むけないですね。

これは監督がこの街並みを舞台にした映画でもつくって、それが当たれば、それはもう最高ですね。

○参加者

最近では、個々にもカメラをみんな持っているので、街の人が街の映像を撮って配信するような形になれば・・・。

○知事

やっぱり1人、ネットに詳しい人がいて、この街をどんどんPRすると面白いですよ。それで、写真もみんな素人で撮ったものを入れたりとか・・・。

物語というのが必要で、例えば絹屋町というのは昔は問屋がたくさんあって、どうのこうのとかですね、ストーリー性がないと駄目ですね。

○参加者

テレビでうちのお店なんかも出たんですよ。そうしたら、やっぱりああいう公共の電波ですよ。それを見まして、国中のほうから、わざわざお店まで来ていただきました。今までいろいろな雑誌にも載せていただいたり、いろいろしたんですが、テレビで放送されたものが一番効果がありました。

というのは、今までまちめぐりをしましても、ただ説明だけで、お金は落ちませんよね。それでいろいろな雑誌にも載せていただいても、私のお店へは来るんです。来てお店の中を映させてくださいとか、外観を撮らせてくださいというお客さんはいっぱいいるんですよ。

午前中は配達にも行きますもので、午前中はカーテンが閉めてあるんですよ。そうしますと、そのカーテンが閉まっているので、それが開くまで家の前で待っているという方もいるんですよ。その方は別にお店が開いたらそこで物を買うのではなくて、開いたところの写真を撮りたいということで。

○知事

何が魅力なんですかね。

○参加者

本棚も既製のものではなくて、亡くなった父が手作りで作ったものなんです。全部の棚が一律同じ棚ではないんです。細い棚もあれば広い棚もあるし、そして枠もほかのものと、またその隣のものとまた違うというものなんですよね。

お店へ入る戸も、よそ様の戸はサッシですよ。うちは昔から木の枠のガラス戸なんです。ですから、通りを大きい車が通ったり、それからスピードを上げて通ると、ガタガタッという音はしますし、冬はまた隙間風は入ってきますし、とても寒いお店なんです、それがよいのかどうか、そのへんは分からないんですが・・・

あとは何をしてもお金が落ちていくということはないですね。お金のことばかりでちょっとおかしいようですけどもね。

○知事

まだ話していない方は。

○参加者

いろいろ皆さんおっしゃったとおりなんですが、お友達に観光課に勤めていらっしゃる方がいらっしゃるんですが、観光に来た方がレトロな街ということで来るんですが、2、3軒見るぐらいで、あとは廃屋とかそういうもので、何がレトロなのかと、どこをどう見ろというのかという感じで、お叱りを受けるんですって。

私もこの間、黒壁という滋賀県のほうに行ったんですが、そこもやはり10年か15年ぐらいはシャッター通りで、本当にさびれたところで、観光というものはなかったんです。

あるスペシャリストにお願いして、まちづくりを計画していただいて、皆さんがある程度出資をして街をおこしたんですが、人は来ますけれども、そこで売れるのは伝統があって、昔からやっているお店だけが長く続いて、お客さんが来るんですって。

付け刃みたいに、街並みができたから、そのお店屋さんもはやるなと思って来ないということで、やっぱり伝統がないとお客さんというものは続いて来ないということを商工会の方がおっしゃっていましたが、吉田でもやっぱり少しそういう方に頼んで、お金をかけていただいて・・・

黒壁も昔からあるものではないので、最初は観光客が来たでしょうけれども、続いていかないと。ただ、何かやっぱり魅力をつくるには、最初はお金をかけてそれをつくっていかなければ、人は来ない・・・

○知事

昔からの何かあって、それがこう客寄せの拠点になるということですね。

○参加者

でも古くからやっている店はやっぱり長く続いて、お客さんを持っています。この間なんか油屋さんがあったんですが、昔から古く続いていて、やっぱり私た

ちも買ったんですけれどもね、入りやすいお店ですね。だからそんなふうになにか伝統とか、そういう文化というものがなければ、人は呼べないというんですが、正しく私もそうだと思うんです。

ただ、2、3軒あっただけで人が呼べるかということは、絶対はないと思うんです。誰も街おこしをしたいと思っても、何をどういうふうにしていいのかわからないから、やっぱり最初の原点というのは、そういうものになるんじゃないかなと、私は思うんです。

○知事

何かそういう拠点になるようなものはあるんですかね。客寄せになるような。

○参加者

黒壁でも3つあるといいというんですね。そういうものが。

○知事

いかがですか。

○参加者

私は皆さんとちょっと離れたところ、商店街ではなくて、自営で自動車のほうの整備をやっているんですが、あまり街並みとかには関係なくて、うちの周りはすぐ裏に小室浅間神社がありまして、そこで流鏝馬祭りをしているんですがそのお祭りがもっと繁栄するように・・・今、シャッターになっているんですが、そこはずっと木の棒があって、すごく風情があったんです。

○知事

参道ですか。

○参加者

参道です。

○参加者

通るところは、舗装してなくて土なんですけど、その周辺の緑とかを増やして、みんなくつろげるような場所にしたら、少しはお年寄りやら子どもやらが来るんじゃないかと思うんですよね。それには駐車場も必要なんですけど、そういう廃屋のところを市で駐車場にして貸すとかして、みんな交流できるような場所がほしいと思います。

○知事

その流鏝馬をする、その馬場というのは、昔は風情があったというのは、どういう点で風情があったんですか。

○参加者

溶岩でずっと積んであったらしいんです。私の店にはそれが貼ってあるんですよ、写真が。石で積んであって、もう少し広がったらしいんですよ。

○参加者

昔はもう少し風情のあるところだったんですね。それをどういふわけか、神社で全部、コンクリのシャッターの付いた倉庫にして貸し出しをしちゃったんですよ。

そのためにあそこが何か殺風景な通りになってしましまして、反対側にお店も

あったんですが、それから何かちょっとかわいそうな感じになってしまった。

(下吉田) 第一小学校が、今、子どもさんがすごく少ないんですね。昔からある学校なんですけれども、皆さんが何とかして子どもさんを増やしたいと思っているんですが、昔からある学区制のために、例えば子どもさんが全然増えなくて、今1クラスぐらいしか1学年ない学年がありますね。

その学区制というものを、もう少し変えていただいて、第一小学校がもう少し人数が増えるようにしていただけたらと思うんですね。お浅間さまという昔からのお宮さんもありますし、子どもさんが増えればもう少しに賑やかな声も聞かれるかと思うんですが、そういうことは行政としてどうお考えなんでしょうか。

通りによって、ここからこちらは第一小学校、ここからこちらは第二小学校と分かれておりますけれども、その線引きをちょっと融通してほしいと思うんです。

私たちから見ても、ここの地域は第一小学校のほうが絶対近いでしょうということも、昔からの区切りなので。

○知事

確かに線引きが……。不便なところは、こっちの小学校の学区でも、こっちのほうに行きたい人が行ったらいいじゃないかということがあるかもしれませんね、確かにね。

○参加者

それは私の家のところは、どう見ても、その第一小学校に近いんですね。でも、どちらを選んでもいいというところに入っているんですね。だから、もう少しこのもう一段上の通りまでは第一小学校に行くようにすると、もうちょっと第一小学校が増えるとか……。

○知事

それは市の教育委員会ですね。

○参加者

そういうことは皆さん働き掛けていらっしゃると思うんですが、それがなかなか実現しないので、ぜひお願いできたらと思ひまして。

○知事

何か理由があるんでしょうね。教育委員会で……。

○司会

ちなみに第二小というのは生徒がたくさんいるんですか。

○参加者

はい、たくさんいますね。

○知事

小室浅間神社というのはなかなか古い神社ですよ。もったいないですよ。

○参加者

何百年も昔から、神事として流鏝馬ですね。だから観光のためではなくて、本当に生活に密着した流鏝馬というものは、全国的にも珍しいらしいんですね。

○知事

吉田の街というのは、昔は繊維で栄えた街ですからね。昔はみんなお金持ちだっ

たんですよね。

○参加者

そうですね。ガチャマンとか言われて。

○知事

そういうときには、本当に神社も氏子さんがみんなお金持ちですからね。

○司会

だんだん予定時間を過ぎまして、終わりの時間になりますが、いかがですか。もう言い残したことはないでしょうか。

○参加者

趣味のような喫茶店をしていたんですが、お店を閉めて、今は主婦に・・・。

○知事

そうですね。じゃあもうやってないんですか。

○参加者

はい。私たちは本町大好きおかみさん会という会の名前にする位、やはりこの廃虚のような街といっても、やっぱり好きなんです、この街が。若い人たちが入ってきてくださる。それに若い人たちが本当に生活ができる基盤というものをくって、本当にここへ来てもらって、長く住んでもらいたいということ、常々本当に思っているんです。

だけど空き店舗があって、みんながいいと言ってくださっている、新世界というところがあるんですが、もうほとんど、本当に中を開けたら、途方に暮れてしまうほどすごいところなんです、でも・・・。

○知事

すごいというのは古くなってしまっている。

○参加者

古いし、中にある荷物もそのまま入っていたり、そこから木が生えてきてしまっているとか、けれども、絶対その道路は風情があるというんです。現に若い人たちがそこに住みたいという、そこでお店をしたいという若い人もいるんですが、大家さんもたまたま女性の方なので、そこも袋小路みたいになっているから、壊すこともお金がなくてできないし、売ることもできないし、かといって、そこを直して貸すことはできないし、自分たちでお金を出してくれればよいというけれども、でも若者にそれだけのお金もない。

私たちも気をもんでいるけれども、本当に何もできないという状況で、だからそこが例えばお店ができれば、さっきのうどんのことなんです、この間の読売新聞に、吉田にうどん通りという、そういうようなものがあつたんですが、現に東京から見えた方がうどん屋さん、この近くにありますかと見えるんですが、近くに何軒かはあるんですね。それも2時ぐらいには閉めてしまって、しかも日曜日はお休みという状況で、この間も気の毒になって、じゃあ車で送っていきますというように、このメンバーの中に何人か、そういうことの経験がある方がいるんですが、市は立派なうどんマップとかをつくれますけれども、それをつくるなら、本当にみんなが来るときに、ここはやっていますよというお店を1軒つく

るお手伝いを本当にしてもらいたいというように、うどんの街と言った以上、それだけしなければ、本当に来た方にかわいそうな思いをさせるというのが・・・。

それすら私たちの力では、お金とかそういう面ではできなくて、本当に商工会議所の中に、見ている本当に失礼ですが、本当にやる気のある人が職員に1人でもいたら、もっと踏み込んだ調査ができると思う。だけど空き店舗にしても、家賃がいくらですということぐらいしかうたってなくて、でもこうでこうしたら、いくらになりますとか、もっと踏み込んだ調査がおばさんたちだってできるじゃないかというぐらい、歯がゆい思いをしているんですけども、若い人たちに本当に入ってもらいたいと思うんですが、その一歩が踏み出せないという。

○知事

そうすると、その改修費みたいなものを出す形がある。

○商業振興金融課長

空き店舗でそれを利用するのであれば、改修費とか家賃の補助ですね、あるんですけども。それは当然、商工会議所もご存じですし・・・。

○知事

全額補助はしてくれませんからね。

○参加者

若者に本当にそれをやれといたら・・・。

ですので、さっきからネックになっている、その個人の持ちものを行政がという部分がすごくいつもそれがネックになっているんですが、私たちは観光の街とか、レトロの街ということで、絶対売りたいと思うし、本当に若者がぶらぶら来て、旅行者がぶらぶら来て、ここはいい街だと思ってくれることのほうがうれしいわけですから、何よりも住んでいる人たちが楽しく暮らせる街という、その中にうどんというものも必要だと思うし、本当に行政のほうでバカになって、そこまで力を貸してくれる人たちがいないものなのかしらという。

○参加者

人材というのがすごくやっぱりほしい。

○知事

やっぱり引っ張ってくれる人がね。いろいろなことをよく知っていて、そういう人が必要ですよ。

商工会議所にでもいればいいんだけどね。

コンサルタント的な人でアドバイザーってどうなの。

○商業振興金融課長

今、甲府のほうでまちづくりとかやっている事業では、東京からコンサルにも来てもらったりしているんですが。

○知事

東京からコンサルを呼んでも、補助金もありますよ。でも、やっぱり、いろいろ格好いいことばかりいって、こうしろ、ああしろなんてね、自分でその街に住んでね、自分で先頭に立って、その街を良くしようという愛着を持ってね、という人じゃないんですよ。要するに商売でやっている。いろいろなことは知って

いるけれどもね、それだけのことなんですよね。

それは、いろいろな世間が分かるという意味ではいいけれどもね。

○参加者

言ってもらうことは、たぶんみんなが考えていることと同じことなんですよ。
ただノウハウというか、そういうものを。

○司会

話は尽きませんけれども、知事から感想を含めまして・・・。

○知事

大変勉強になりました。

しかし、なかなか袋小路であれもやりたい、これもやったりとか、皆さんみんないろいろなことをお思いなっている。しかし、なかなかうまくいかないということがありまして、しかしその悩みというのは、よく分かるんですが、行政がしかしそれをできるかという、なかなかできないということもありますし、しかしそうやって皆さん方が集まっていつも悩み続けながら、いろいろなことをやっていくことが大事なんだろうね。

そういうことをやって、自分の街を愛している人たちが何人もいて、一生懸命、街のことを考えて、いろいろなことを思考錯誤でやっているということが大事ですからね。

○商業振興金融課長

県下一緒で申し訳ないですが、セミナーとかもやっていますので、ぜひそういうものに参加していただいて、自分たちで検討してもらってやる気をもってやっていただくということも・・・。

○参加者

先ほどありましたね、一覧がね。県政出張講座という。このへんもよく検討して、そういうもので、もう少しお話が聞けたりとか。

○知事

行政、そうですね。もちろん専門家を派遣することができるんだけど、行政というのは、なかなか難しいんですよ。まちづくり、その地域に住む人でうまい人がいてね。一生懸命やってくれるとね、そうするといろいろ応援することができるんですよ。

補助金というものも100%補助にするわけではありませんからね、半分補助になったりしますからね。

しかし頑張ってください。

県にできることだったら・・・。

道路を広げろと言われればあれだけでも、道路を広げてしまったら、この街もおかしくなっちゃうんでしょうね、きっとね。

○参加者

新しい街とか見て、つくづく思うんですが、片道2車線だと何か、ちょっとこれを貸してということもできなくなるし、何か街が分断されていくんだなど、いいんですけれども、ちょっと寂しさもすごく感じますね。

○知事

この通りが中央通りみたいになってしまったら、またうまくないしね。

○参加者

それはすごく寂しいですね。

○知事

今のところ、あまりお役に立てなくて申し訳ないですが、一つ皆さんで頑張ってください。

また、何年か後にお会いしたら、いいことがありましたとなるように、お互いに頑張りましょう。

○司会

どうも、ありがとうございました。